支援をひろげるための取組の実施について

資料２

１．趣旨

『千葉県こども・若者みらいプラン』では、こどもの貧困対策に関する新たな取組(重点支援施策)として、**「支援をひろげるための取組」（こどもの貧困に関する周知啓発）**を位置づけており、以下の取組を行うこととしている。

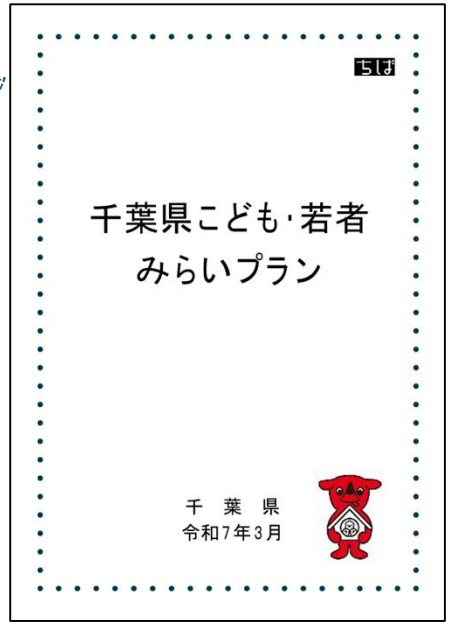
① こどもの貧困に対する**社会の理解を促進するための取組**

② こどもに関わる周りの大人がこどもの貧困に気づくことができるよう、**様々な関係者を対象とした研修**

６　支援をひろげるための取組を推進します。

①　貧困の状況下にあっても、その当事者であるこどもと保護者が自ら相談しようと思える、ＳＯＳを上げられる社会環境を醸成するため、「こどもの貧困は家庭の責任ではなく社会全体で受け止めて取り組むべき課題である」との認識を、国、地方公共団体、民間の企業・団体のみならず、当事者であるこどもとその家庭にも浸透するよう、こどもの貧困に対する社会の理解を促進するための取組を進めます。

②　こどもに関わる周りの大人がこどもの貧困に気づくことができるよう、様々な関係者を対象とした研修等の取組を進めます。



２.令和７年度の取組状況

① 社会の理解促進（県民等向けの啓発）

・令和６年度に実施した**「千葉県こどもの生活実態調査」**(以下「実態調査」)の結果を公表。

・市町村(生活困窮者自立支援制度担当者)向け説明会で、実態調査の結果概要を説明。

② 研修の実施

・令和８年度より、県において「社会の理解促進」と「貧困への気づき」の両面を目的とした研修の実施に向け、**「気づきのためのチェックシート検討会」**において、研修内容を検討。

気づきのためのチェックシート検討会委員（50音順、敬称略）	
井本 義樹（望みの門ピーターパンの家 センター長）	**古川 孝行**（ひなたぼっこ保育園 園長）
川島 隆太（千葉県スクールソーシャルワーカースーパーバイザー）	**遊間 京子**（千葉市立畑小学校 校長）
中村 沙絵（児童家庭支援センター・旭ヶ丘 主任相談員）	**吉井 稔**（中核地域生活支援センターさんネット センター長）
◎**初谷 千鶴子**（千葉女子専門学校 教諭）	◎…座長

研修案（全体構成）

ここでは便宜上、「周知啓発＝【基礎研修】」、「実践的内容＝【実践研修】」と呼称。

（１）対象

こども支援の現場スタッフ（教育、保育、こども食堂、支援機関 等）

└将来的には広く県民向けの実施を目指すが、まずは支援職向けに限定し、研修内容の作り込みを優先する。

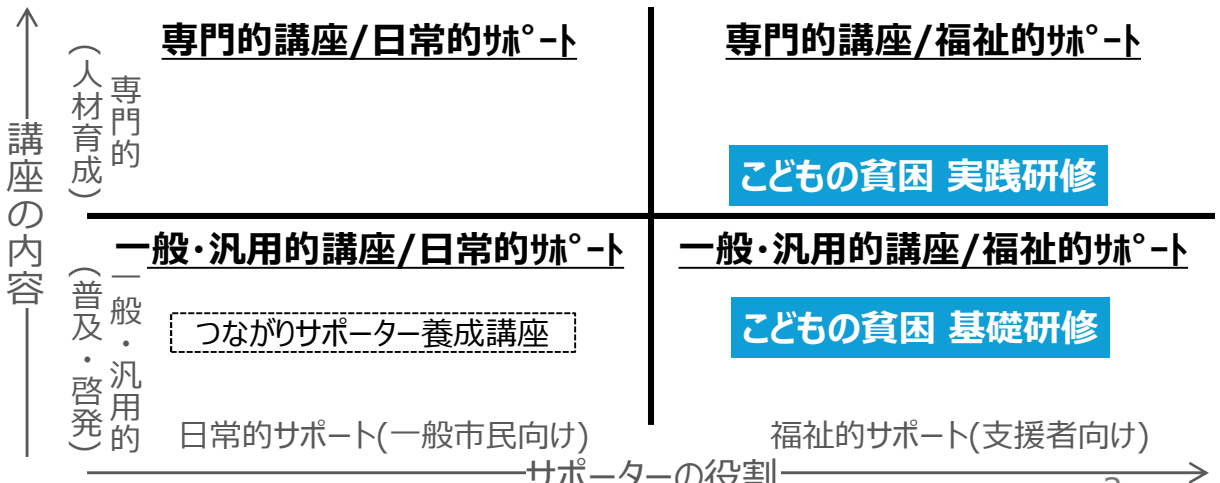
（２）目的

こどもの貧困に関する研修を実施し、困難を抱えるこどもの背景や支援についての理解を深め、温かく見守ることができる支援者を増やすことにより、貧困の状況下にあっても、こどもやその家庭が自ら相談しようと思える、SOSを上げられる社会環境を醸成する。

（３）構成 詳細は次スライド

基礎研修（周知啓発）	講演［90分］
	ネットワークづくり［90分］
実践研修（実践的内容）	行政説明［60分］
	講義［60分］
	演習［180分］

（各種サポーター養成講座の中での位置付け）



研修案（基礎研修）

ここでは便宜上、「周知啓発＝【基礎研修】」、「実践的内容＝【実践研修】」と呼称。

基礎研修（周知啓発）

概　　要

- 実践研修に先立ち、全国的に講演実績のある講師による**講演**を企画し、多数の受講者を呼び込むことにより、広くこどもの貧困への関心を高める。
- 併せて、様々な分野(教育、保育、こども食堂等)から参加する受講者の**ネットワークづくり**の場とする。

プログラム
講　　師

形式・時間	科目	内容	講師
講演 90分	こどもの貧困の実情と私たちにできること（仮称）	大筋の内容は講師に一任。 ただし、以下の要素を盛り込んでいただく。 ・**こどもの貧困の深刻な実態** ⇒問題への危機意識(関心)を高める。 ・**私たちにできること（気づき・見守り等）** ⇒次のステップへの関心を高める。	全国的に講演実績のある講師
グループ交流 90分	多分野のネットワークづくり	6～8人単位のグループをつくり、それぞれの取組紹介、現場の課題やできそうなこと等を意見交換。	チェックシート(CS) 検討会委員(進行)

時　　期　**7月**中旬～下旬（学校の夏季休暇**前半**）

会　　場　大規模会議室（100～150名収容）※講演部分はビデオ撮影しオンライン視聴も可とする。

研修案（実践研修）

ここでは便宜上、「周知啓発＝【基礎研修】」、「実践的内容＝【実践研修】」と呼称。

実践研修（実践的内容）

概　　要

- 気づきのチェックシートの活用を前提に、貧困への気づきと支援につなぐ**実践力の向上**を促す。

プログラム
講　　師

形式・時間	科目	内容	講師
行政説明 60分	こどもの貧困の概要	・データの説明（こどもの貧困率／千葉県こどもの生活実態調査） ・制度説明（こどもの貧困解消法／主な支援制度）	県
講義 60～90分	支援の現場から	・貧困状態にあるこどもの生活実態、心理的・社会的影響 ・支援のポイント（背景の理解、心構え・配慮、保護者支援） ・支援事例の紹介（成功事例・失敗事例など複数用意）	CS検討会 委員 (1～2名)
昼　休　憩（60分）			
演習 180分	支援の実践 （模擬事例演習）	・模擬事例（多機関連携の事例）を用いた演習 ① 気づく　（ワーク：チェックシートを使ってみる） ② 共有する(ロールプレイ：職場内での共有→対応検討) ③ つなぐ　（ロールプレイ：こどもや保護者への接触） （ワーク：連携できる社会資源） ④ 振り返り＆講評	CS検討会 委員 (複数名)

時　　期　**8月**中旬～下旬（学校の夏季休暇**後半**）

会　　場　中～大規模会議室（50～100名収容）